

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成26年度農作物病害虫発生予察情報について

平成26年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

平成26年度農作物病害虫発生予報第3号

平成26年6月2日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.2%、発病度が0.002)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発病率:平成14~15年は未確認,平成16年は4.8%,平成17~23は未確認,平成24年は9.1%,平成25年は未確認)。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.8%、発病度が0.1)。なお、補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発病率:平成14~23年は未確認,平成24年は14.3%,平成25年は未確認)。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本田葉いもちの伝染源になるので、置き苗は補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生が認められたら直ちに液剤による防除を行なう。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は14.3%、25株当たり成虫数は0.33頭で平年(17.2%、0.5頭)と比べてやや低めの発生である。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 根腐しやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が93.3%、寄生株率が29.9%であり、平年(69.0%、19.7%)と比べやや高めの発生である。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が6.7%、被害葉率が0.1%であり、ほぼ平年(11.2%、0.2%)並の発生である。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 通常の発生であれば、特に防除は必要ない。多発した場合には、食葉性害虫等の防除に併せて薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率が40.0%、寄生葉率が1.7%であり、ほぼ平年(30.0%、5.1%)並の発生である。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、充分な量の薬液を散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年より遅い(前年よりやや遅い)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場での第1世代幼虫の発生は5月22日に初確認された(平年:5月16日, 前年:5月18日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は, IGR剤の場合には発生確認の10~15日後, 有機リン剤の場合には35~40日後の時期である。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月前半の巡回調査では, 旧葉での発生圃場率は43.8%, 寄生葉率は4.4%であり, 平年(40.5%, 6.8%)並の発生である。

(2) 5月29日発表の1か月予報では, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い, 降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 十分な量の薬液を散布する。

(2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用を避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(5月19日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年よりやや遅い)

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中~多」

2) 予報の根拠

(1) 今春の予察灯調査において, ツヤアオカメムシは勝浦町では平年(4月27日)より遅い4月29日に, 上板町では平年(4月26日)と同時期の4月26日に初誘殺を確認した。チャバネアオカメムシは勝浦町では平年(4月28日)より遅い4月30日に, 上板町でも平年(4月27日)より遅い5月2日に初誘殺を確認した。

(2) 5月29日発表の1か月予報では, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い, 降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝浦町					上板町				
	2014年	2013年	2012年	2011年	平年	2014年	2013年	2012年	2011年	平年
5.1	28	0	97	0	20	50	0	13	0	39
5.2	28	28	166	2	62	19	0	54	10	71
5.3	96	76	53	59	46	216	2	34	7	78
5.4	104	50	71	25	129	76	2	14	3	54
5.5	132	34	49	6	81	103	1	15	3	50
5.6		43	170	1	100		29	4	6	21
6.1		7	75	28	39		2	15	5	9

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2014年	2013年	2012年	2011年	平 年	2014年	2013年	2012年	2011年	平 年	2014年	2013年	2012年	2011年	平 年
5.1	12	0	22	0	8	2	0	4	0	18					
5.2	4	0	22	3	26	3	0	20	12	39					
5.3	34	6	3	8	9	19	0	31	11	42					
5.4	40	5	7	0	45	56	0	14	5	19					
5.5	50	20	4	0	52	33	1	3	5	19					
5.6		19	17	0	34		9	3	0	11					
6.1		3	4	10	16		0	5	2	4					

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は5.1であり、ほぼ平年(88.3%、8.8)並の発生である。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%、葉の被害度は10.2であり、平年(47.4%、2.7)に比べてやや高めの発生である。
- (2) 5月29日発表の1か月予報では、平年と同様に曇りや雨の日が多いと見込まれている。気温は平年並または高い、降水量と日照時間はほぼ平年並と予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

Ⅳ. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病害虫の発生予察情報,発生状況,防除法等をお知らせしています。